

## エコチル調査・宮城ユニットセンターにおける妊婦の医薬品使用状況の評価-宮城ユニットセンター薬剤詳細調査より-

著者	西郡 秀和, 小原 拓, 目時 弘仁, 石黒 真美, 水野 聖士, 櫻井 香澄, 岩間 憲之, 村井 コリ子, 杉山 隆, 菅原 準一, 眞野 成康, 栗山 進一, 八重樫 伸生
雑誌名	DOHaD研究
巻	3
号	1
ページ	49-49
発行年	2014
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/2860">http://hdl.handle.net/10271/2860</a>

## P-26 エコチル調査・宮城ユニットセンターにおける妊婦の医薬品使用状況の評価 —宮城ユニットセンター薬剤詳細調査より—

○西郡 秀和<sup>1, 2</sup>、小原 拓<sup>1, 3, 4</sup>、目時 弘仁<sup>1, 2, 3</sup>、石黒 真美<sup>1, 3</sup>、  
水野 聖士<sup>1, 2</sup>、櫻井 香澄<sup>1</sup>、岩間 憲之<sup>2</sup>、村井 ユリ子<sup>4</sup>、杉山 隆<sup>2</sup>、  
菅原 準一<sup>2, 3</sup>、眞野 成康<sup>4</sup>、栗山 進一<sup>1, 3, 5</sup>、八重樫 伸生<sup>1, 2, 3</sup>

<sup>1</sup>東北大学大学院・医学系研究科・環境遺伝医学総合研究センター、<sup>2</sup>東北大学医学部・産科学婦人科学教室、<sup>3</sup>東北大学・東北メディカル・メガバンク機構、<sup>4</sup>東北大学・病院薬剤部、<sup>5</sup>東北大学・災害科学国際研究所

【背景・目的】環境省では、本邦における10万組の子どもたちとその両親に参加していただく大規模な出生コーホート調査「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」を平成23年1月より開始した。全国15ユニットセンターで調査が実施されており、胎児期から生後13歳まで、子どもの発達を定期的に調査するプロジェクトである。宮城ユニットセンターでは、独自の追加調査として、平成23年6月から「妊娠中の服薬と児の発達障害との関連」を検討するための薬剤詳細調査を実施している。

【方法】追加調査の協力を得られた対象者について、妊娠初期および妊娠中期から後期における医療用医薬品の使用状況を評価した。

【結果】宮城ユニットセンターでは、平成26年5月現在で、9,286名の妊婦がエコチル調査に参加し、本研究課題で実施している薬剤詳細調査に関しては、6,388名に対して調査の説明を実施し、3,800名が同意している。データ入力を終えている対象者において、薬剤使用状況を集計した結果、妊娠初期(2,464名)に最も多く使用されている薬剤は市販されている解熱・鎮痛・感冒薬(1,478剤)であり、次いで、病院で処方された解熱・鎮痛・感冒薬(1,130剤)が多く使用されていた。また、妊娠中期から後期(2,380名)にかけて最も多く使用されていた薬剤は葉酸(589剤)であり、次いで、子宮収縮抑制薬(ウテメリンなど)(571剤)が多く使用されていた。

【結論・展望】エコチル調査の追加調査として妊娠中の薬剤使用状況に関する詳細調査を順調に継続している。現在、収集された薬剤使用に関する情報の電子化、および出生児の奇形など子どもの発達障害に関する情報の収集を行っている。本研究によって、妊婦における薬剤疫学研究のためのコーホートが構築された。